



横浜の一〇年

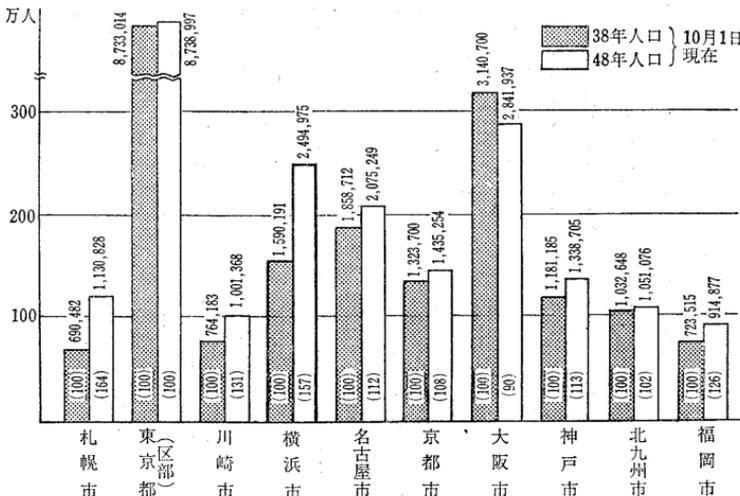
1 市民

一〇年間に九〇万人の増

横浜の人口はこの一〇年間に、福岡市の人口とほぼ同じ、九〇万人も増加しているが、これは一〇大都市中では一番である(図-1)。この人口の増加は、学校、道路、下水等が整備されていなかった周辺区に集中し(図-2)、その整備のため横浜市の財政は大きく圧迫されている。しかも、横浜の人口増加の大きな原因は、他都市から転入して来る人による社会増にあることが特徴となっている(図-3)。そこで、こうした社会増による人口増加を抑制するために種々の対策が講じられており、その効果は昭和四十七年頃から現われはじめている。

しかし、出生による自然増は今後も続くものと考えられ、現在、二五六万人に達した市民はこれからもさらに増加し、学校をはじめその他の施設の整備に当分追われることになると思われる。

図-1 10大都市でも一番の人口増加



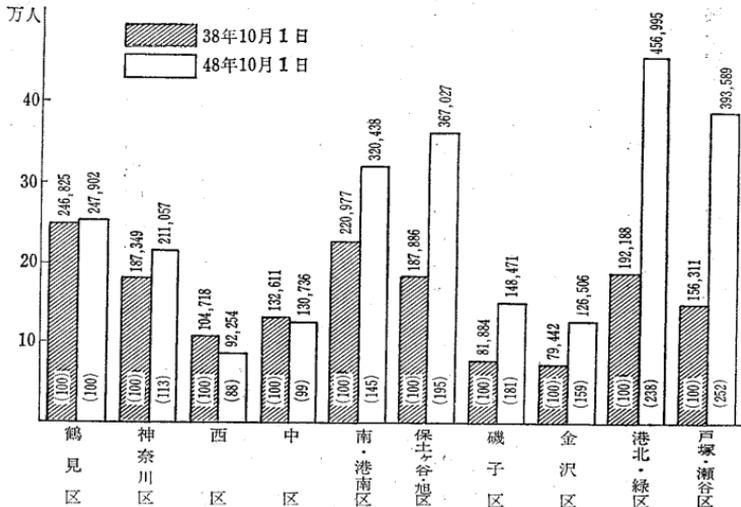
〔注〕 () は昭和38年を100とした指数

〔資料〕 「大都市比較統計年表」(札幌市、川崎市、福岡市については「統計書」による)。
「日本統計月報」(総理府統計局)



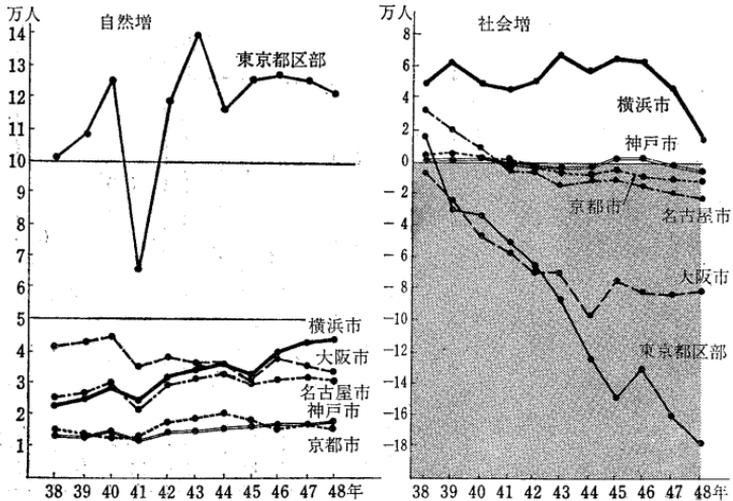
市民

図-2 郊外区で人口急増



[注] 昭和44年に分区を実施した関係区は2区分を合計して人口の比較をしている
 [資料] 「第43回横浜市統計書」, 「横浜市人口ニュース」

図-3 6大都市人口増内訳



[注] 各年数値は前年10月からその年の9月までの増加分
 [資料] 「日本統計月報」(総理府統計局)